

第二部 パネルディスカッション

都市における農地の役割は何か？

～様々な角度から都市農地の大切さを考える～



コーディネーター

後藤 光蔵

パネリスト

豊泉 裕

山根 衛

堀之内 和信

大塚 信美



コーディネーター

後藤 光蔵

(武蔵大学経済学部教授)

東京大学大学院農学系
研究科博士課程修了、
農学博士。東京大学社
会科学研究所助手、
(財)農政調査委員会
専門調査委員を経て
1979年武蔵大学経済学
部助教授、1982年より
武蔵大学経済学部教授。



パネリスト

豊泉 裕

(立川市在住農業生産者)

**体験型農園、収穫型農園からの地域コミュニティを
実践している。また、食育
関連施設「スマイルキッチン」を
経営し、種まきから調理まで、
食育の場を提供している。**



パネリスト

山根 衛

(国分寺市戸倉自治会
中・西・北地区防災会
防災推進委員)

市運営の防災まちづくり
学校を卒業後、平成14
年より市民防災推進委員
として広域的な地区をまと
めている。また、自治会と
農業生産者との間で防災
協定を結び、農業生産者
と連携した防災に係る取
組を行っているキーパーソ
ンである。



パネリスト

堀之内 和信

（（株）日野市企業公社
代表取締役）

学校給食用地元野菜等供給コーディネート業務の委託先事業者である。農業生産者の立場、学校給食栄養士の立場の両方を理解しており、自ら畑、学校を行き来し、学校給食における地元産野菜等の利用率の向上に尽力している。



パネリスト

大塚 信美

(世田谷区在住農業生産者)

世田谷の伝統野菜である大蔵大根の生産、普及に務めるとともに、小学校の農業学習に携わり、実践をしている。露地野菜にこだわって生産、収穫した野菜は自宅前などで直売しており、生産から販売まで手がけている。



コーディネーター

後藤 光蔵

(武蔵大学経済学部教授)

東京大学大学院農学系
研究科博士課程修了、
農学博士。東京大学社
会科学研究所助手、
(財)農政調査委員会
専門調査委員を経て
1979年武蔵大学経済学
部助教授、1982年より
武蔵大学経済学部教授。

2011年9月5日 都市農地保全自治体フォーラム

都市農業の多面的機能

武蔵大学
後藤光蔵

1. 都市農業の多面的機能の特徴

- ① 農業は全て多面的機能を持っているがその特徴や比重は農業地域によって差異がある。
都市農業はくらしを支える(環境と活動)機能が大きい。
- ② 都市農業の多面的機能は役割が大きい。
- ③ 都市・都市環境の変化→都市が抱える問題の解決に都市農業・農地は重要な役割。その期待が大きくなっている。
 - ・環境問題・・・脱二酸化窒素、循環型社会、生物多様性
 - ・人口減少、高齢化、家族構造の変化、コミュニティ・人と人との絆の弱体化

2. 多面的機能の理解

- ① 多面的機能の整理とその金銭的評価……政策展開の根拠
明確にする点で重要
・例えば学術会議の答申(2001年11月)
- ② 地域に存在する農地に即して、農業・農地の多面的機能が
具体的に住民に理解されることが大切。
それが自治体の都市農業・農地施策展開の基盤となる。
- ③ 都市住民の理解は体験したり参加することによって深まる。

練馬区PR冊子「農のあるまち・練馬を知っていますか？」

参一

— 練馬の農の7つの機能 —



太陽の光をいっぱい浴びて育ったみずみずしい野菜畑と農家と住民が虹がたなごうのように7色で農の持つ多面的な機能を紹介します。



1. PR冊子（農のあるまち・練馬を知っていますか？）

農のあるまち・練馬を知っていますか？

— 練馬の農の7つの機能 —

編集・発行 平成22年(2010年)3月
練馬区産業地域振興部都市農業課

練馬の農の7つの機能

- ・農産物供給機能: 四季折々、採れたての安全な野菜が食べられるまち・練馬
- ・レクリエーション・コミュニティ機能: 農業体験が交流を育み、心のオアシスとなるまち・練馬
- ・福祉・保険機能: 心身の健康維持・増進のために農が活かされるまち・練馬
- ・環境保全機能: 農地が都市の環境を守り、資源循環を進めるまち・練馬
- ・教育機能: 子どもからお年寄りまで、農園が生きた学校となるまち・練馬
- ・防災機能: 農地が防災農地としての役割を果たすまち・練馬
- ・景観形成・歴史文化伝承機能: 農の風景から昔からの姿や季節感を伝え続けるまち・練馬

四季折々、採れたての安全な野菜が食べられるまち・練馬

— 農産物供給機能 —



知っていますか？

身近に直売所があるのは区内の47%



歩いてすぐのところに農家の直売所があり、自転車で行けるところに共同直売所がある地域は練馬区内の約47%です。身近なところで採れたての野菜が手に入ります。

かつては練馬大根の生産地として全国に知られた練馬区は、今でも都内随一のキャベツ生産量を誇るなど、比較的大きな規模で、農業・農地が維持されてきました。これからも消費地に近いという利点を生かして、消費者に新鮮で安全な農産物を供給していきます。



凡例

- 共同直売所
- 直売所
- 共同直売所から1km圏域
- 直売所から250m圏域

23区でトップの農地面積

練馬区の農地面積は、約280haで23区全面積の約38%にあたります。2番目の世田谷区の2倍弱で、大きく引き離しています。

東京区部の農地面積



農業体験が交流を育み、心のオアシスとなるまち・練馬

—レクリエーション・コミュニティ機能—



知っていますか？

農業体験農園は練馬のブランド

農業体験農園は練馬区から生まれ、全国に普及しています。農業体験農園の練馬区園主会は平成20年度の日本農業大賞を受賞するなど高い評価を得ています。

都市の農地は、収穫体験や農作業、土とのふれあいを通じて心と身体の健康を回復する身近なレクリエーションの場であり、利用者や農家との交流などのコミュニティが育成されます。

練馬区では、区民農園や市民農園、農業体験農園、観光農園等の様々な場が用意され、暮らしを豊かにすることができま



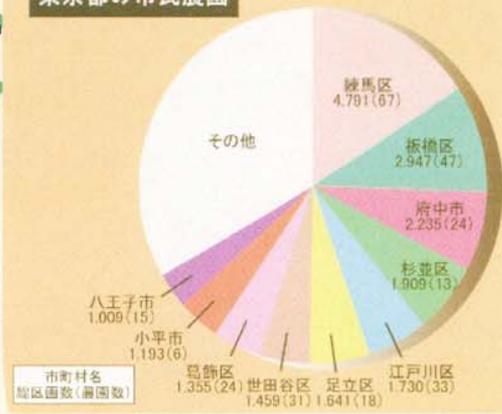
凡例

- 農業体験農園
- 区民農園
- 市民農園
- ブルーベリー観光農園
- 酪農体験

東京都トップの農とのふれあいの場

練馬区の農園の区画数は4,791区画で、東京都全体の約16%となっており、2番手を大きく引き離しています。

東京都の市民農園



農地が防災農地としての役割を果たすまち・練馬

— 防災機能 —



知っていますか!

身近に農地があるのは区内の72%

歩いて行けるところに農地があるエリアは区内の約72%となっています。身近なオープンスペースとしての農地は、防災面でも期待されています。

阪神・淡路大震災以降、都市における防災の必要性が一層高まっています。都市農地は災害時の延焼防止空間として、また地震時における避難場所、生鮮野菜の供給など、防災機能の発揮が期待されています。

練馬区では、JAと区の間で「災害時における農地の提供協力協定」を結んでおり、検討を進めています。



凡例
 ● 農地(生産緑地)からの
 身近に歩いて行ける範囲
 <250m圏域中、徒歩約4分>

※「大阪府災害に強いガイドライン
 (改訂版) 107.11」に記載された緊急
 避難場所の定義「概ね500㎡以上、
 避難圏域半径250m以内」より

畑が洪水を抑制する緑のダム

練馬区の畑は、区内の全小学校71校のプールと同じぐらいの水を蓄え、大雨の際の洪水を抑制します。

貯水量

プール71コ分



練馬の農地



3. 多面的機能の性格

(1) 農業の多面的機能の性格として以下の3点が指摘されてきた。

1. 結合生産
2. 公共財
3. 外部経済

しかしもう少し詳しく見ると

①多面的機能の発揮に特別の取組みを必要としないもの

②多面的機能の発揮のために取組みを必要とするもの

さらに(i)受益者が特定できないもの……景観維持

(ii)受益者の特定ができるもの……レクリエーション機能、教育機能等

(2) 上記の性格にしたがってその多面的機能を発揮させる方法は異なる。

・現状では多く多面的機能は農業者の負担によって(ボランティア的取組みによって)発揮されている。

・今後は(農地が維持され、農業が営まれていれば発揮される機能を除いて)、収益部門としていく努力、工夫

多面的機能をよりよく発揮するために住民・行政と一緒にの取組みなどが重要



パネリスト

豊泉 裕

(立川市在住農業生産者)

**体験型農園、収穫型農園からの地域コミュニティを
実践している。また、食育
関連施設「スマイルキッチン」を
経営し、種まきから調理まで、
食育の場を提供している。**















CTR1



new...
necessary
so that
we may move has evolved









FM84.4

supported by AREA



Good Time Good Music

FM84.4MHz

FMたちかわ
www.fm844.jp

FM84.4
FM-TACHIKAWA



FM-TACHIKAWA

FM84.4 MHz

AREA









パネリスト

山根 衛

(国分寺市戸倉自治会
中・西・北地区防災会
防災推進委員)

市運営の防災まちづくり学校を卒業後、平成14年より市民防災推進委員として広域的な地区をまとめている。また、自治会と農業生産者との間で防災協定を結び、農業生産者と連携した防災に係る取組を行っているキーパーソンである。



災害一時退避所
戸倉自治会 北郷2
19-2



自転車を除く

2011 / 7 / 28

災害一時退避所

戸倉自治会

中地区
NO.4

2011/7/28

地区災害時待避所
(協力農地)

ここは所有者のご協力により災害時一時的に緊急待避できる場所です。

国分寺市・JA東京むさし

2011 / 7 / 28



パネリスト

堀之内 和信

((株) 日野市企業公社
代表取締役)

学校給食用地元野菜等供給コーディネート業務の委託先事業者である。農業生産者の立場、学校給食栄養士の立場の両方を理解しており、自ら畑、学校を行き来し、学校給食における地元産野菜等の利用率の向上に尽力している。

日野市の学校給食

地元野菜供給コーディネート 制度

1.日野市の学校給食

昭和58年度(1983)から開始

開始29年目 全校実施は平成12年度(2000)より
各学校に栄養士が配置
自校献立・購入・調理の方式

平成21年度 25校 13,287人

小学校17校(9,367人)

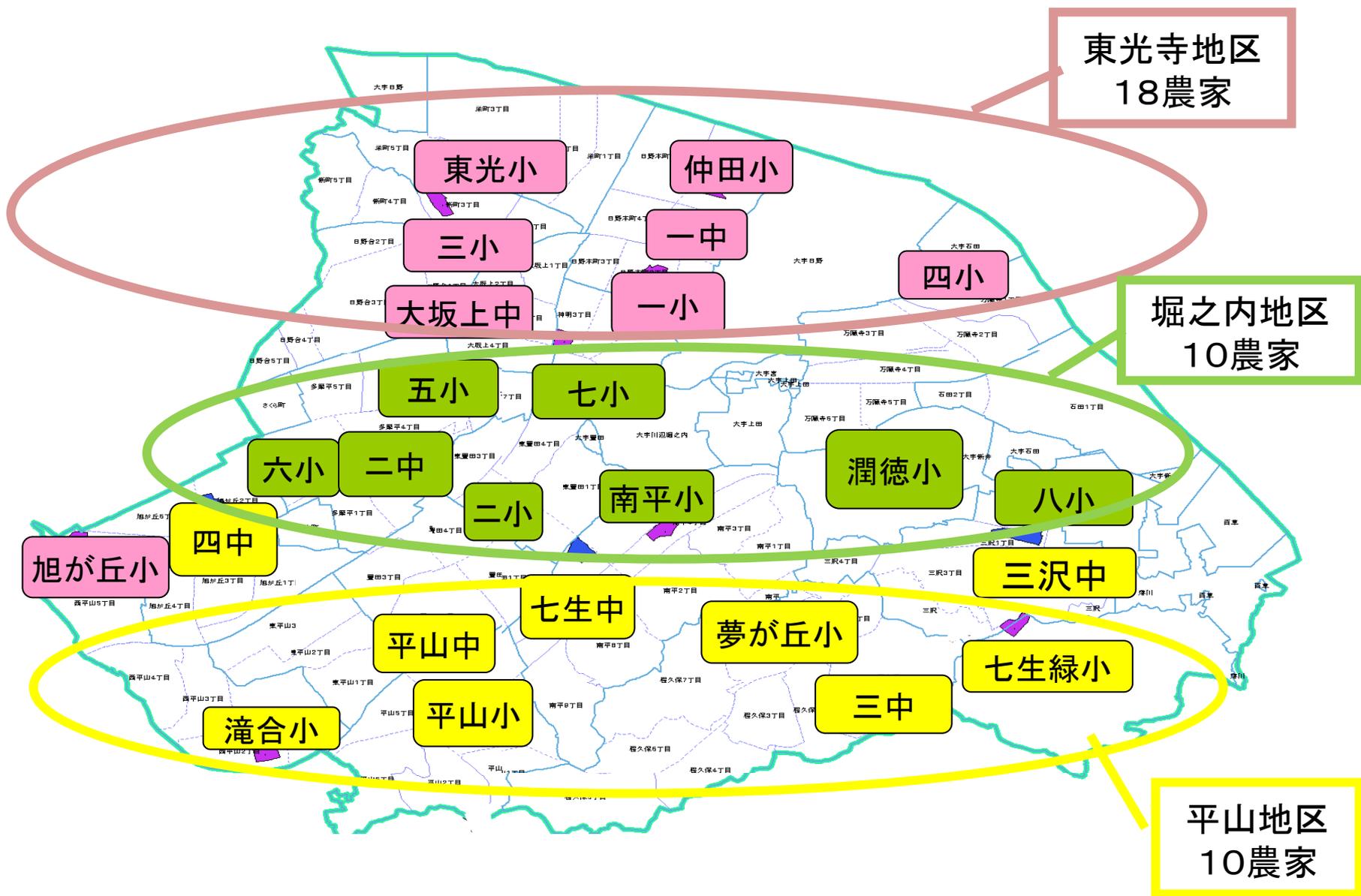
中学校 8校(3,920人)

平成20年度 25校 13,046人

小学校17校(9,140人)

中学校 8校(3,906人)

<学校給食地域マップ>



年間供給量

野菜等	地区名	平成21年度	平成20年度
	平山地区	28,303kg	26,036kg
	東光寺地区	15,631kg	16,525kg
	堀之内地区	18,540kg	16,335kg
野菜等合計	62,474kg	58,896kg	
鶏卵	9,605kg	18,580kg	
りんご	3,613kg	3,107kg	

2.コーディネーター制度の導入

平成20年(2008年)から開始

地元野菜供給育成事業打合せ会議・契約…4月

年度はじめに、各学校の栄養士と農家、農協担当者、市(教育庶務課、産業振興課)が集まり、取り扱う品目・納品規格等話し合い、契約(学校長と地区別農家代表)。
…契約書(別紙1)・話し合い内容(別紙2)

毎月の流れ

(注文)

毎月25日地区内の栄養士代表が、代表農家に翌月の注文書(別紙3)を提出。
農家の話し合いで分担農家名が記入され、学校に届けられる。
栄養士はその結果をみて地場野菜の注文を確定し、それ以外の野菜を各学校契約の八百屋に注文する。
なお、平成20年度からは「コーディネーター制度」を導入し、農家の生産状況等を確認しながら、地区を超えた受注調整を行っている。

(納品)

話し合いで決まった農家が指定日の朝、前日または当日朝にとれた野菜を届ける。

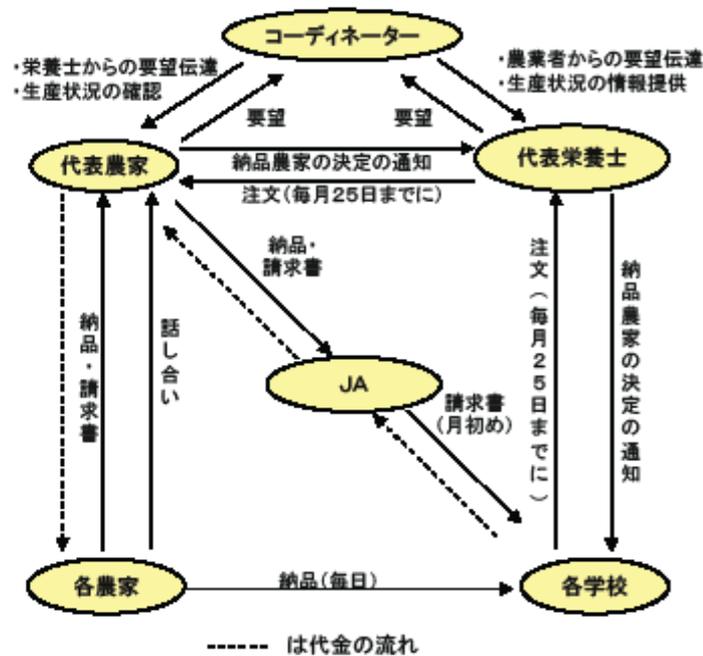
(請求)

各農家は1カ月分の請求をとりまとめて代表農家に渡す。
代表農家は農協へ1カ月分の納品書を提出する。
農協は各学校へ請求書を月初めに送る。

(支払)

学校(栄養士)は、農家代表の農協の口座に代表を振り込む。
農家代表は各農家の農協の口座に代金を振り込む。

学校給食における地元野菜の供給システムの流れ



(1)導入の目的

地元野菜利用率の向上

日野市
食育推進計画の
利用率の達成

平成23（2011）年の計画達成率
25%

過去の達成率

平成18年	15.0%
平成19年	15.7%
平成20年	18.8%
平成21年	24.7%

(1) 導入の目的

野菜供給量の調整

月末、地区毎に農家との調整会議を行い各学校の供給量を決定
地区野菜等の情報交換

平成33年 6月21日
 学校名 第四中学校
 担当者 藤崎
 TEL 583-3905

7 月分注文書 No. 1

使用日	品名	数量	単位	備考	納品者名
4 日 (月)	たまねぎ	53	kg		鈴木下野
日 ()			kg		
6 日 (火)	たまねぎ	5	kg		小林和
日 ()	トマト	15	kg		小林和
日 ()	にんにく	0.1	kg		
日 ()	たまねぎ	1	kg		小林和
日 ()	たまねぎ	23	kg		
日 ()	たまねぎ 小袋	29	kg		
日 ()			kg		
6 日 (水)	にんにく	1.2	kg		小林和
日 ()	たまねぎ	28	kg		
日 ()	とうもろこし	238	本	藤崎	
日 ()			kg		
7 日 (木)	かぼちゃ	26	kg		
日 ()			kg		
8 日 (金)	なす	12	kg		高橋
日 ()	じゃがいも	35	kg		小林和
日 ()			kg		
日 ()			kg		
12 日 (火)	にんにく	0.6	kg		小林和
日 ()	たまねぎ	26	kg		
日 ()	たまねぎ	26	kg		小林和
日 ()	じゃがいも	52	kg		
日 ()			kg		
13 日 (水)	たまねぎ	38	kg		鈴木下野
日 ()	じゃがいも	47	kg		
日 ()			kg		

(1)導入の目的

野菜等単価の決定

同時期・同一品目・同一単価

多摩・西東京・八王子の市場価格と前年度価格を参考

契約栽培品目

人参・玉ねぎ・長ネギ・大根・キャベツ・ジャガイモの6品目

作付20円/kg 出荷補償40円/kgで 60円/kg を補助

契約栽培品目外 一律20円/kg を補助

地区を超えて野菜供給の斡旋

調整会議の情報を元に、直接各学校の栄養士へ斡旋

学校と農家の交流

農地見学(野菜等の育成状況)

農家講師(野菜のはなし)

要望・苦情等の対応

給食会

農業体験・用水路見学



パネリスト

大塚 信美

(世田谷区在住農業生産者)

世田谷の伝統野菜である大蔵大根の生産、普及に務めるとともに、小学校の農業学習に携わり、実践をしている。露地野菜にこだわって生産、収穫した野菜は自宅前などで直売しており、生産から販売まで手がけている。













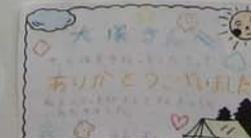
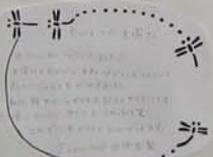
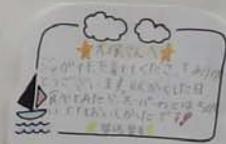
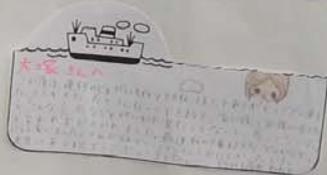
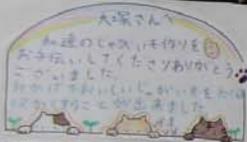
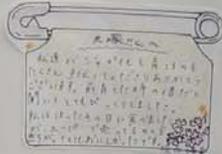




大塚さんへ

これからもよろしくお願いします

ありがとう
ございました!!







第5回 都市農地保全自治体フォーラム

都市における農地の役割は何か？

～様々な角度から都市農地の大切さを考える～



なぜ、いま都市に農地が必要なのか考えてみませんか